



# 大砂土中だより

はっ らっ  
澆 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.10 平成29年 2月1日号

性、相近し。習い、相遠し。

校長 清水 一司

今年は2月4日が立春です。立春は二十四節気の一つで、暦の上ではこの日が春の始まりになります。正月に「新春」「迎春」などの表現を使いますが、これは旧暦の正月が立春とほぼ重なっていたことの名残だそうです。

これから少しずつ日が伸び、水が温む頃になると、3年生は義務教育の課程を修了し、それぞれが選んだ道へと中学校を巣立つこととなります。中学校を卒業すると日本の学校制度では3年間の高等学校、4年間の大学で学習や研究を深めることができます。小学校の6年間、中学校の3年間と合わせて、この学校制度を6・3・3・4制と言います。今年日本の学校制度が6・3・3・4制になって70年目となります。この学校制度は万国共通のものでなく、国によっては州ごと、学校の種類ごとに異なるなど様々です。私は20年ほど前に諸外国の学校制度について研修する機会を得ましたが、日本の学校制度は諸外国の学校制度に比べて分かりやすいと感じたことを覚えています。

昨年12月に、3年に一度実施される国際学習到達度調査(PISA2015)の結果が報道されました。今回の調査は、世界の72の国や地域から約54万人の15歳の子どもたちが参加して実施されました。この調査で、日本の子どもたちは「読解力」が8位、「科学的リテラシー」が2位、「数学的リテラシー」が5位と、優れた学力を証明しました。これは6・3・3・4制の学校制度の下で、小学校教育、中学校教育に力を尽くしてきた先達の努力の結果であり、日本の学校教育の結果であると捉えています。

ところで、先日、たくさんの高校生が乗車している電車に乗り合わせましたが、改めて車内でスマートフォンを操作している高校生の多さに驚きました。少なくとも乗車していた高校生の8割はスマートフォンを操作していたと思います。スマートフォンの画面に向かう様子では、SNSやゲームをしていたように見えました。今から20数年前、スマートフォンや携帯電話が世の中に存在しないことはもちろんのこと、コンピュータも携帯できないような時代の高校生は、電車内で本を読んだり仲間との会話を楽しんだりしていました。それが今や、友人と言葉を交わすことがないばかりか、当たり前のようにスマートフォンの画面に向かいSNSやゲームをするような時代です。こうした状況に違和を感じるのは私だけでしょうか。日本の子どもたちは国際的に優れた学力を誇るものの、何か大切な力を失ってしまったのではないかと思わずにはいられない光景でした。これも、日本の学校教育の結果ではないかと考えさせられました。

「子曰く、性、相近し。習い、相遠し。」(論語)

孔子先生はおっしゃった。人の生まれつきというものは、ほとんど差がないのだ。生まれた後の習慣や学習の違いによって差が大きくなってしまふのだ。

同じ車内で、参考書を片手に教科書を開いて勉強している高校生も見ました。授業の予習なのか復習なのか、テスト勉強なのかは分かりませんでした。私はその姿を見てとても爽やかな気分になりました。時間を惜しんで学習に取り組むその高校生の様子から、学力はもちろん、テストで測ることのできない力も育っていると感じました。これも、日本の学校教育の結果だと、教育に携わる一人として誇らしくなった瞬間でした。